

作業靴アンケートについて

転倒災害防止の取り組みの一環として、「滑りにくい靴」の導入・使用がある。令和6年度+Safe協議会で、作業靴の効果的な使用について、令和7年度の協議会の開催時に専門家による講演を行うこととした。講演のための前提として、現在使用している作業靴の使用状況と、実際の使用感について調査するため、以下のアンケートを実施した。

1 アンケート対象

神奈川介護施設+Safe協議会の構成企業に勤務する労働者

2 回収数

100名分

3 アンケート方法

Microsoft Formsによるwebアンケート

4 アンケート実施期間

令和7年2月5日（令和6年度第2回+Safe協議会開催日）から令和7年3月31日まで

アンケート項目

- 所属事業場
- 職種
- 支給状況
- 介護職としての経験年数
- これまでの購入足数
- 購入した作業靴の価格帯
- 回答者自身が作業靴に対して考える予算
- 作業靴の種類
- 作業靴の使用足数

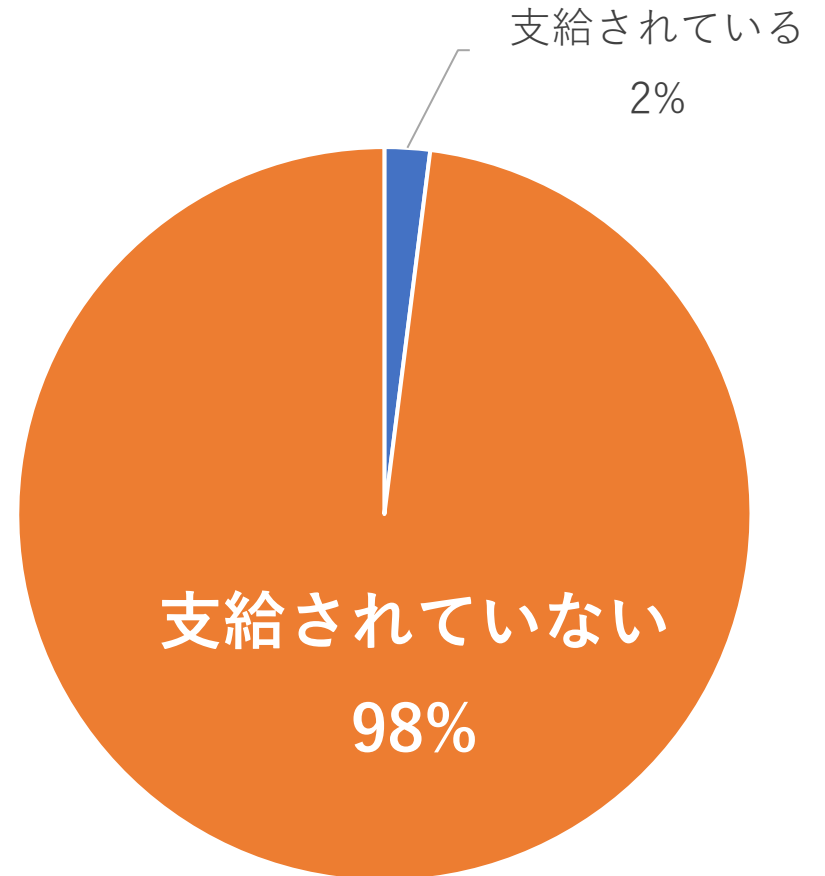
- 交換期間
- 中敷き交換の有無
- 中敷きの交換期間
- 作業靴の機能に対する満足度
- 機能に対する重要度
- 作業靴に関するヒヤリハット・労災事例
- おすすめのメーカー
- その他意見

作業靴の会社からの支給の有無について

100名中98名が会社から支給されていない(自費で購入している)と回答した。

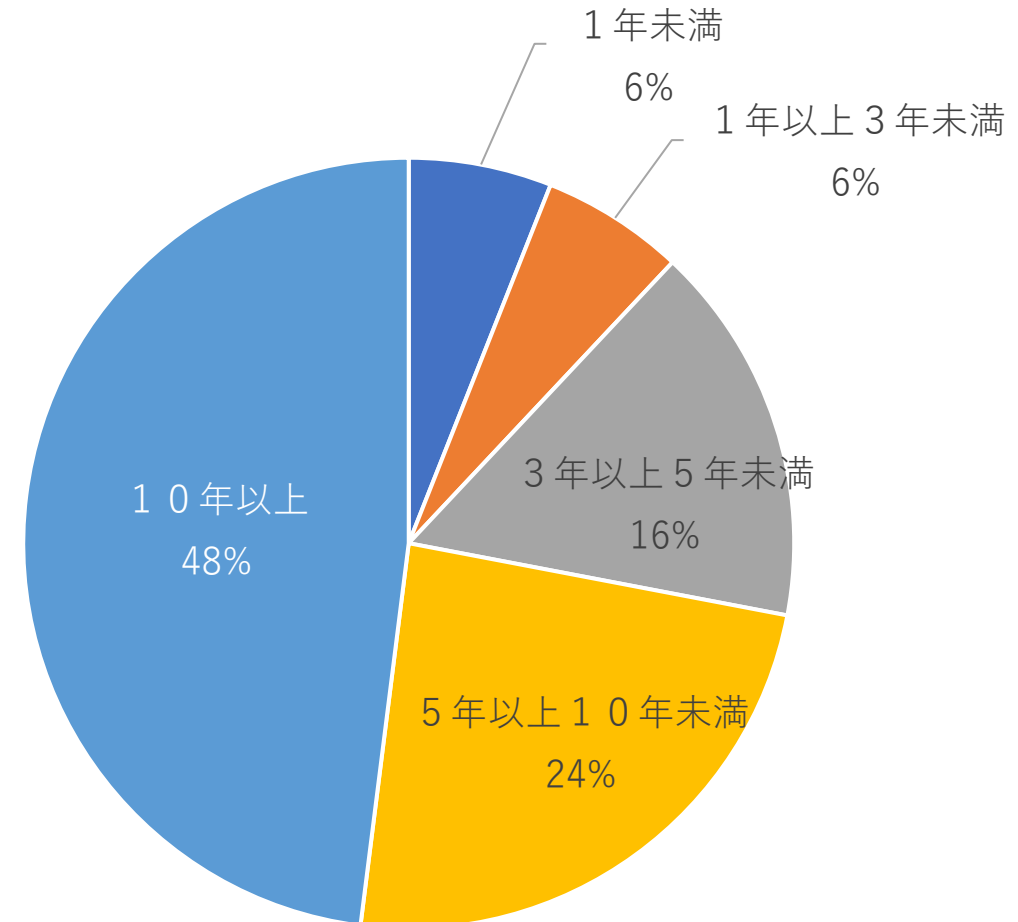
回答者の声

- ・作業靴は消耗品だと考えており、安価で靴紐がなく脱ぎ履きしやすいものを目安に購入しているが、会社が負担、支給してくれるのであれば丈夫な作業靴が欲しい(同種意見他3名)。
- ・施設で支給又は割引で共同購入出来るのであれば購入してみたい。



介護職としての経験年数について

回答者の介護職としての経験年数について、回答してもらった。
経験年数5年以上（「5年以上10年未満」と「10年以上」の合計）と回答した件数は全体の約7割（71名）という結果となった。

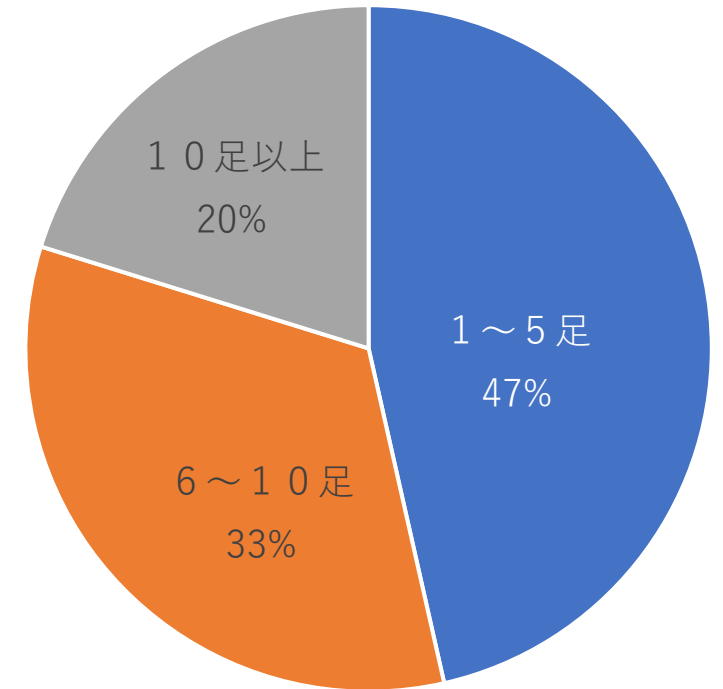
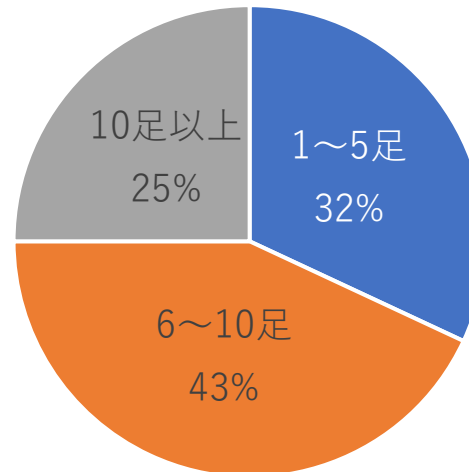


作業靴のこれまでの交換足数について

作業靴の交換頻度については1～5足、が最も多く、
全回答者中47%(46名)が5足以下という結果と
なった。

介護職経験年数との関係

経験年数5年以上と回答した72名の内訳では「6～10足」が最も多いことから平均して年間1～2足を交換していると考えられる。一方、1足～5足と回答している者も3割程度みられ、ある程度靴の劣化が進んでいても同じ作業靴を使用している者もいると考えられる。



現在使用している作業靴の購入価格について

回答結果は右のグラフのとおりとなる。

回答結果としては分散しているが、2001円から

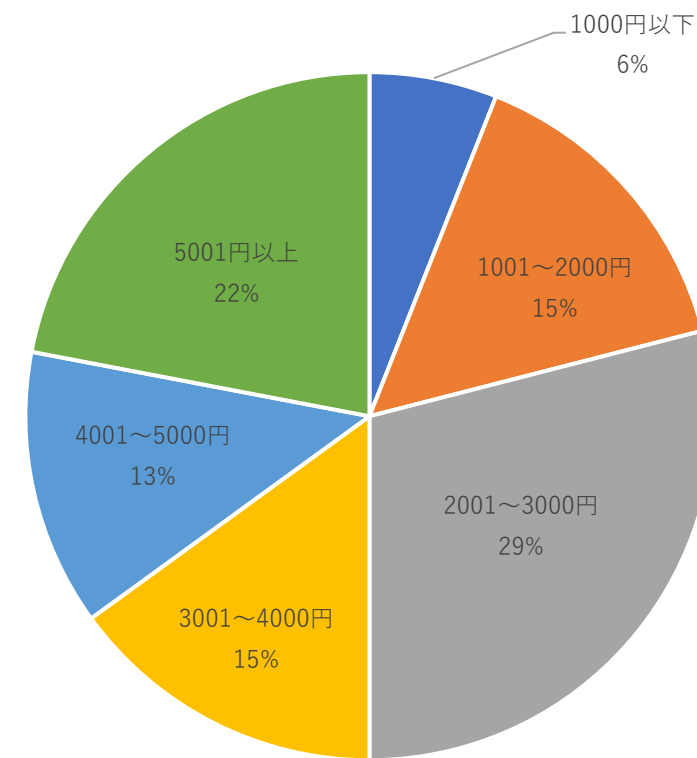
3000円までと回答した者が最も多い。全体としては、

購入価格3000円以下を金額を回答した者は全体の

5割という結果になった。

⇒

現在使用している作業靴の購入価格

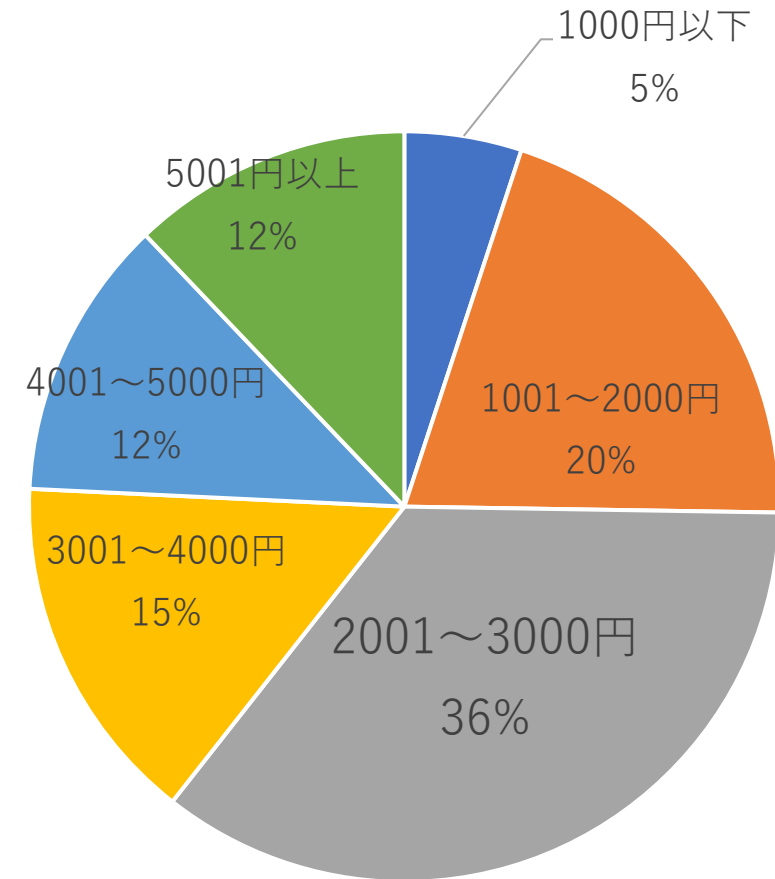


作業靴に対する現実的な予算について

現実的な予算についての回答結果は右のグラフのとおりとなっている。

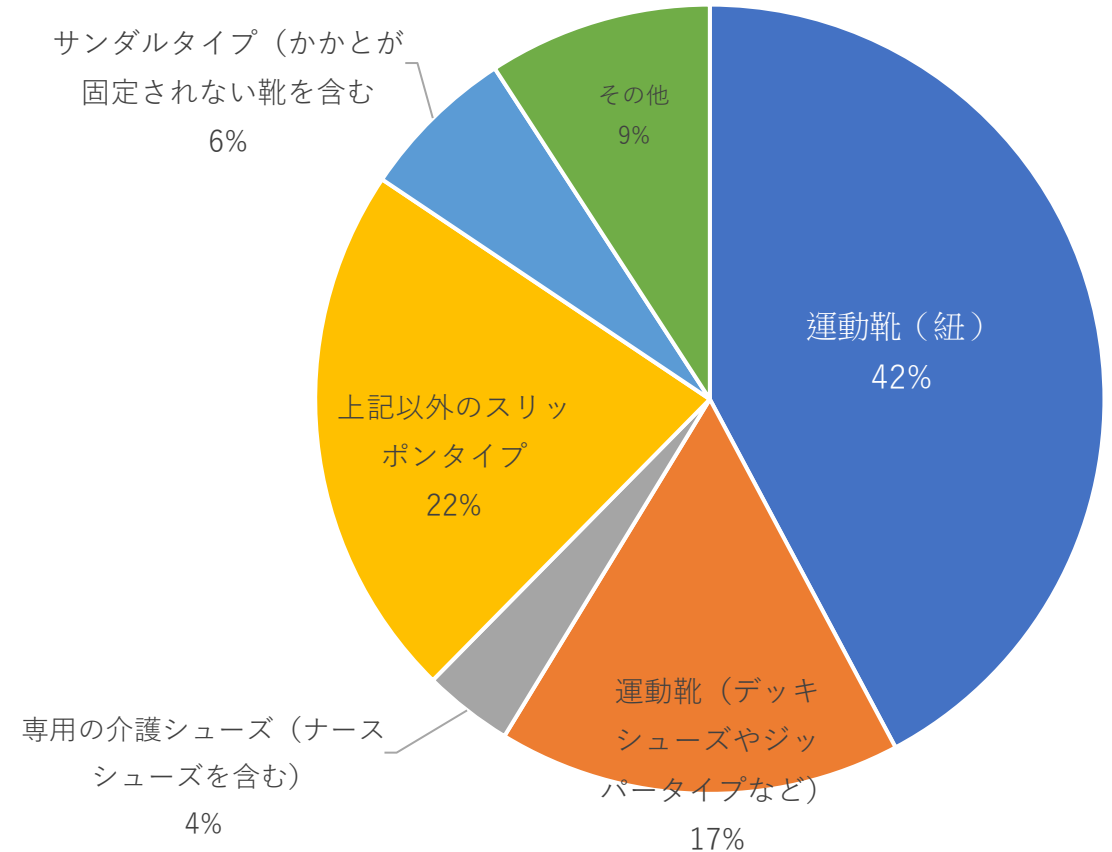
3000円以下と回答した者が全体の約6割を占めている。

実際に購入している作業靴の価格と、作業靴を使用する者が考えている予算に乖離が見られることがわかる。



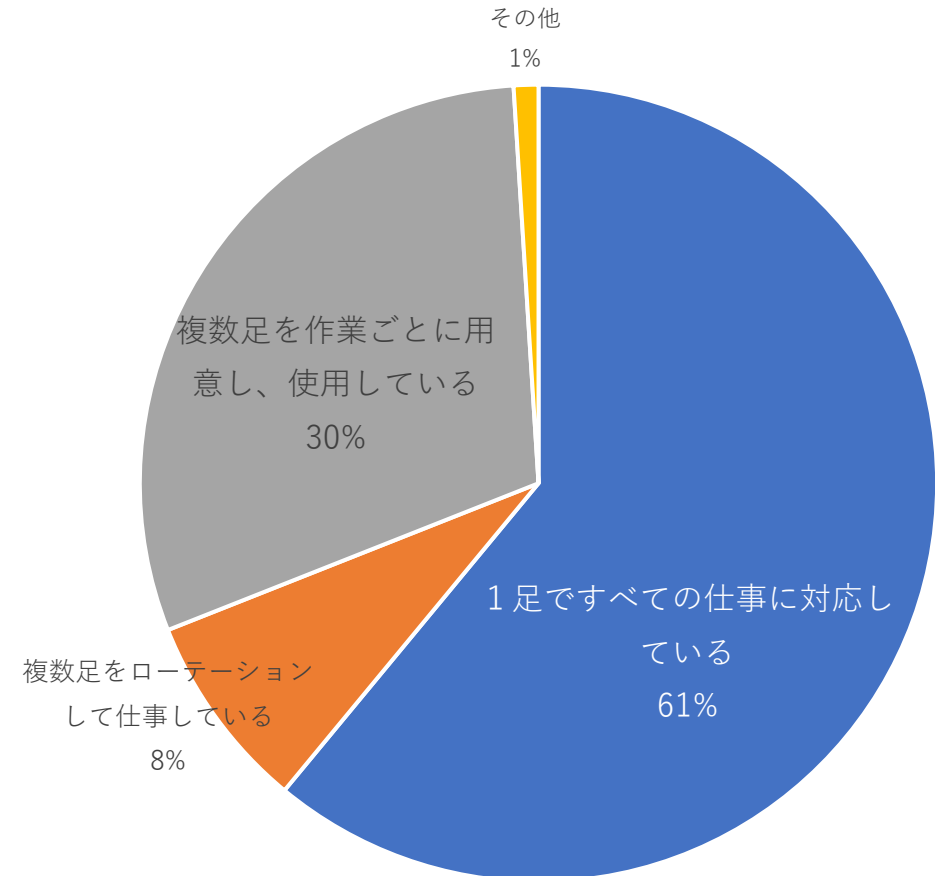
現在使用している作業靴の種類について

回答結果は右のとおりである。選択肢は介護施設で一般的に使用されている靴を中心に設定した。最も多いのは紐タイプの運動靴で全体の4割を占める。「デッキシューズやジッパータタイプの運動靴」「専用の介護シューズ（ナースシューズを含む）」「上記以外のスリッポンタイプ」の靴を使用していると回答したものは合計で48%となっている。



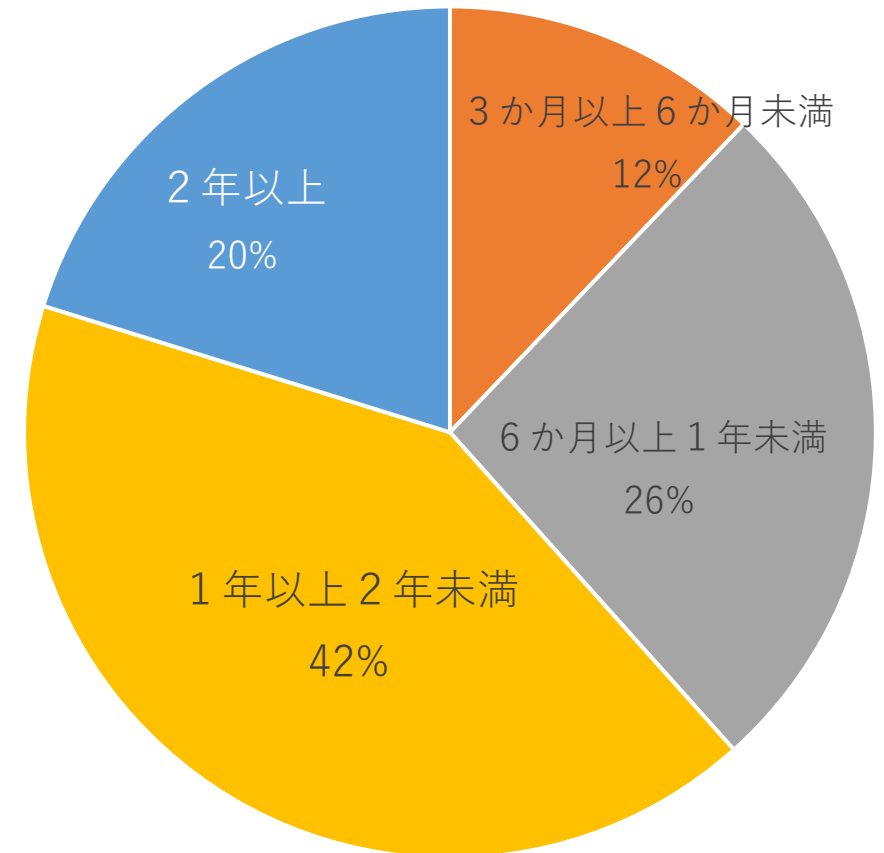
同時期に使用している作業靴の足数

回答結果は右のグラフのとおりである。
同時期に使用している作業靴の足数について、「1足で、すべての仕事に対応している」と回答したものは全体の約6割となった。
複数足を作業ごとに分けて使用している者は全体の3割となった。



作業靴の交換頻度

作業靴の交換頻度について、「1年以上2年未満」が最も多い割合を占め、次に「6か月以上1年未満」が多いという結果となった。また1年以上同じ靴を使用する割合は「1年以上2年未満」と「2年以上」の合計で6割に上り、多くの者が長期にわたって同じ作業靴を履いて作業をしているという結果となった。

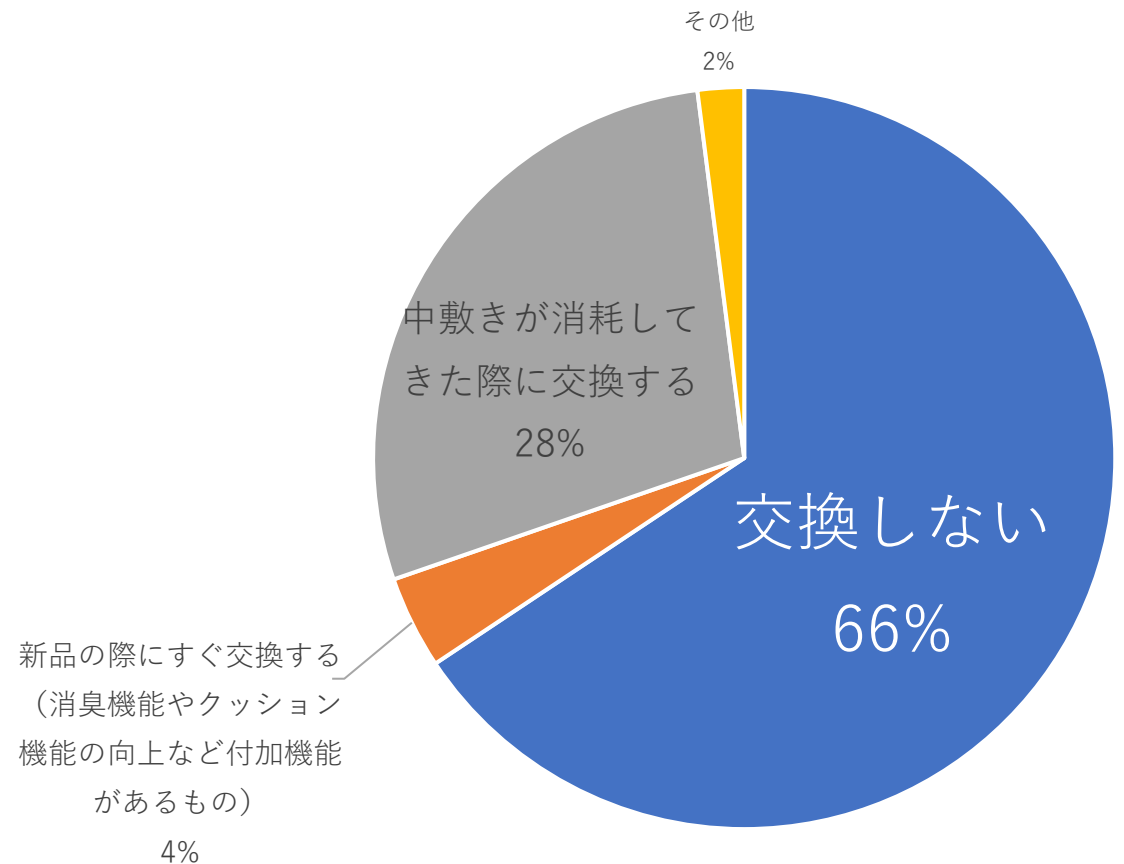


作業靴の中敷きの交換の有無

靴に中敷きを付加することで、足に与える負荷の軽減が期待される。安全靴は高価なものが多いが、中敷きは靴に比べて安価なものが多いため、転倒災害防止のための安全靴への対策のアプローチの一つとして中敷きの使用を考えたものである。

アンケート結果は交換しないが全体の6割を占め、多くの労働者が交換していないことがわかった。

また、交換するを回答したもののでも、消臭機能やクッション機能の向上等の付加機能があるものに交換している労働者は全体の4%程度という結果となった。

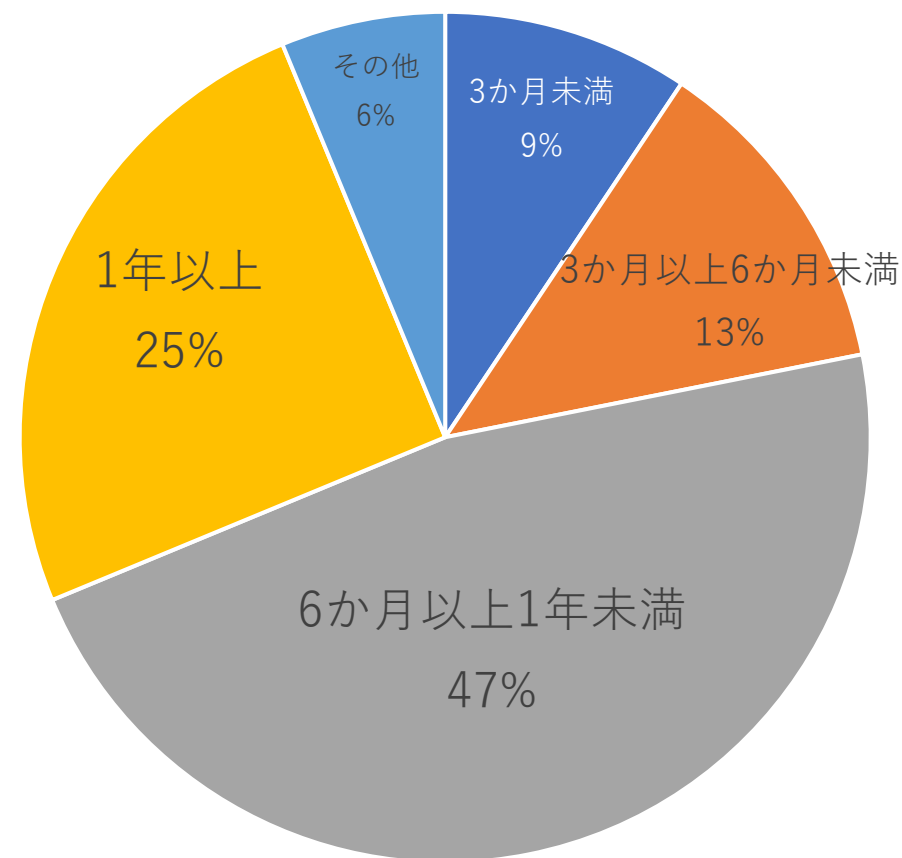


作業靴の中敷きの交換頻度について

前の質問で「作業靴の中敷きを交換する」と回答した者32名について、中敷きの交換期間についてのアンケートを取った際の回答結果が右のグラフである。

6か月以上1年未満と回答したものが全体の47%となっており最も多い。次点で1年以上と回答したものが全体の25%（8名）であった。

なお、「その他」は未回答や最初に中敷きを交換した後、その後交換しないと回答したものの合計である。



作業靴の満足度について

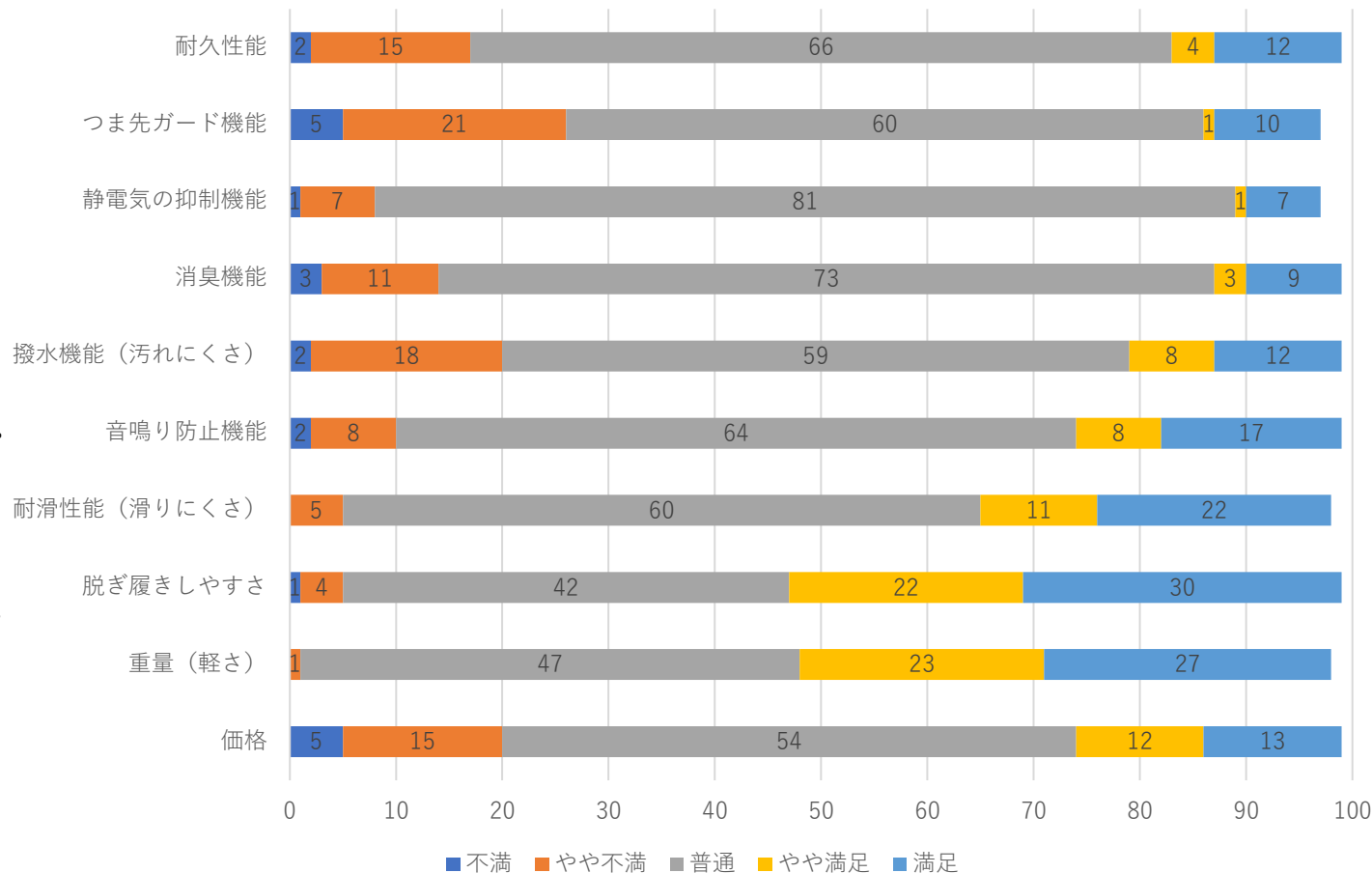
現在使用している作業靴についての満足度について、10項目について5段階評価で評価してもらった結果が右のグラフのようになった。

満足度が高い（満足、やや満足の回答者数が多い）ものは、「重量」及び「脱ぎ履きしやすさ」であった。一方で、満足度が低い（不満、やや不満とした回答者数が多い）ものは「つま先ガード機能」及び「耐滑性能」であった。

「耐滑性能」については、「満足」「やや満足」と回答した者は多くないが、「不満」「やや不満」と回答した者は少なく、ほとんどの者が「普通」と回答している。

回答者の声

- ・安全に作業できる靴は魅力的ですが、消耗品なのでかける金額は3000円程度で収めたい。
- ・機能的に良いものがあっても値が張るものは選ばないと思います。



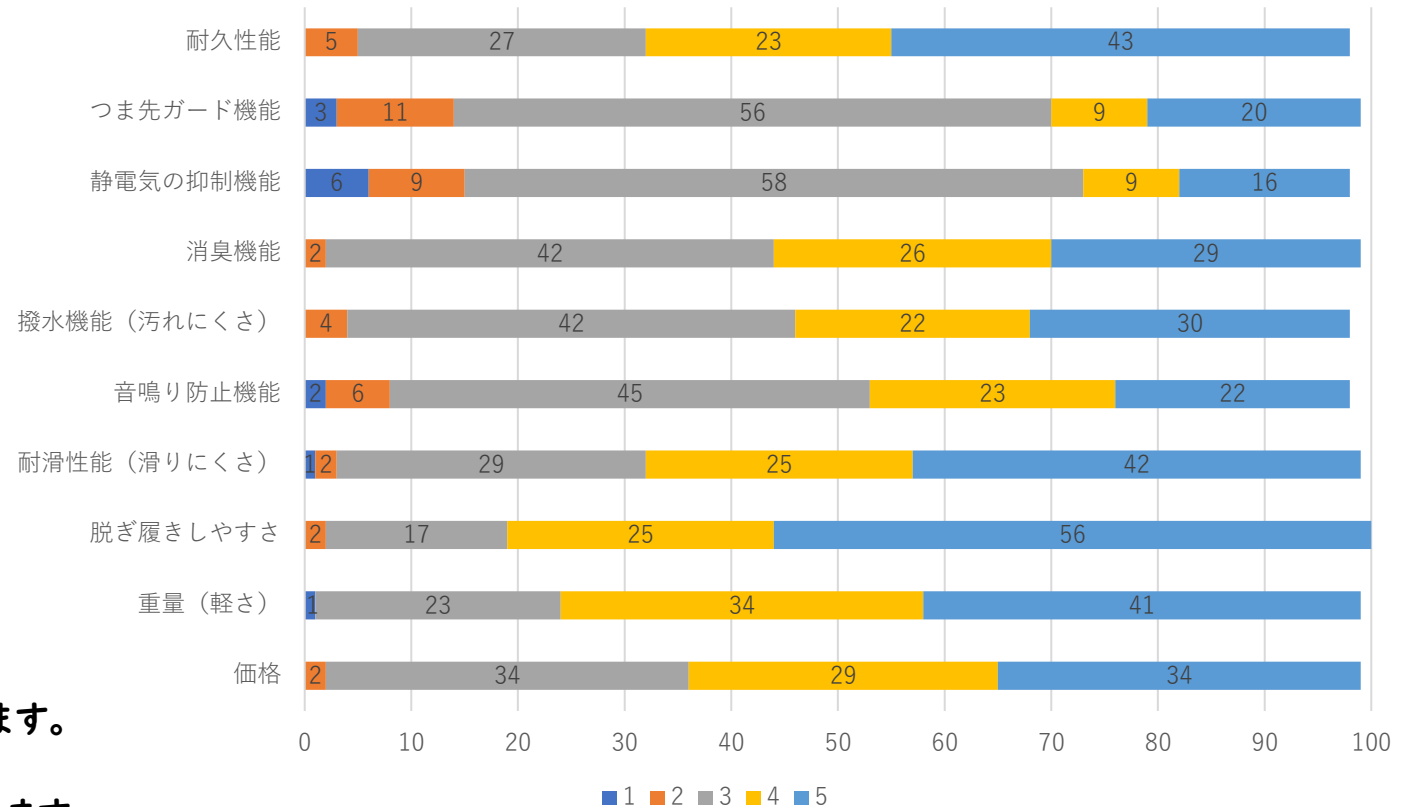
作業靴の機能について回答者自身が考える重要性について

作業靴の機能に関して、重要性が高いと考えている項目として、「耐久性能」「耐滑性能」、「脱ぎ履きしやすさ」「重量」「価格」「汚れにくさ」がいずれも重要性が高いと回答した者の件数が、5割を超えており、重要性を認識していることがわかった。

なお、項目のうち、「つま先ガード機能」、「静電気の抑制機能」については、「ふつう」と回答している者が多く、重要性が低いと回答しているものが他の項目と比較して多いことから、これら項目については他項目と比較して重要性は低いという結果となった。

回答者の声

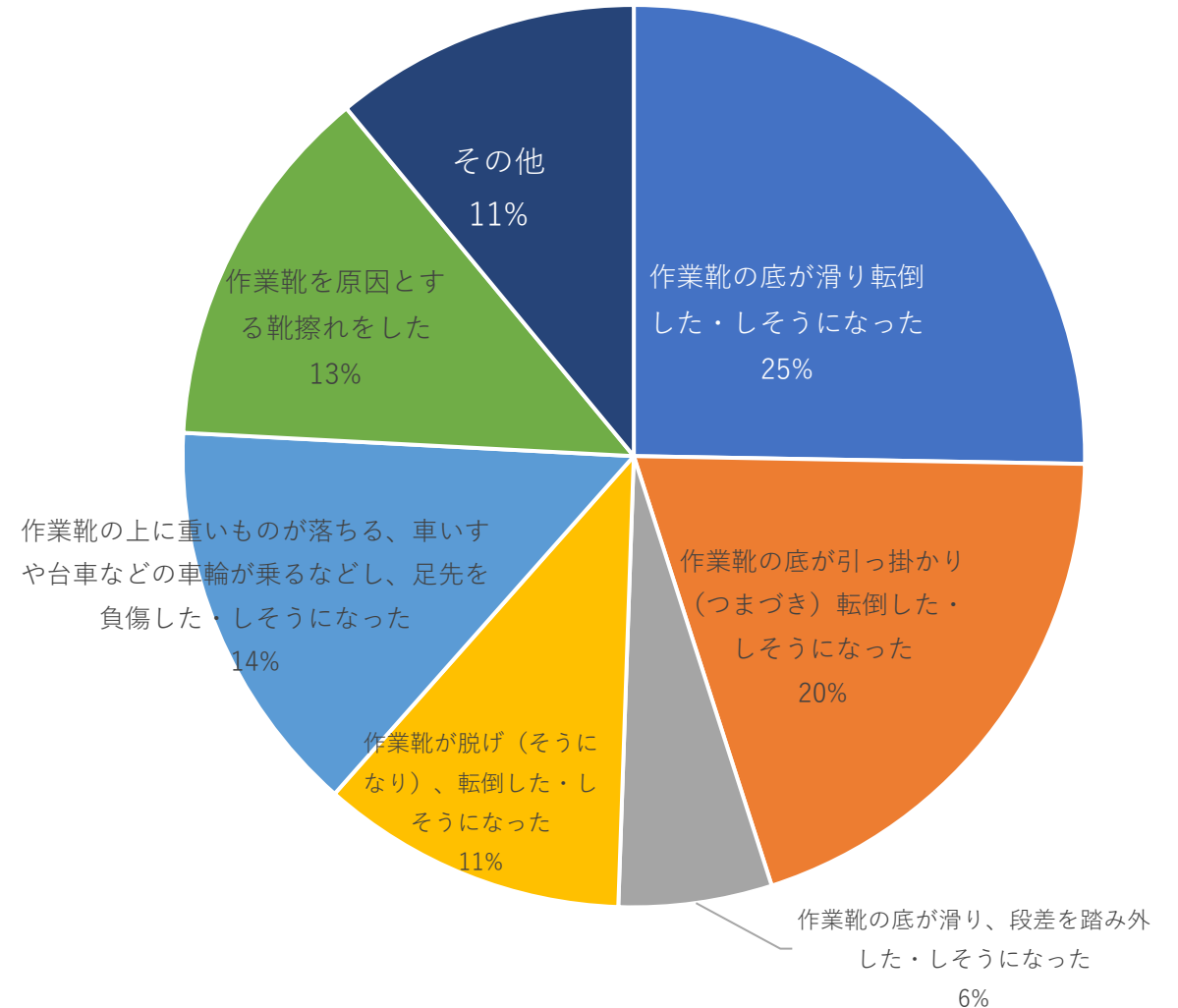
- ・1日に8000歩程度業務中に歩く為**軽さ**、動きやすさが求められる。
- ・**匂い、蒸れ、滑りにくさ**が気になる。
- ・だらしく見えず、**履きやすさ**や足をホールドできるものを選んでいきます。
- ・**軽く、脱ぎ履きしやすい**物がいいです。
- ・長時間履く事が前提なので自分の足に合っている事を大事にしています。
- ・クッション性があり足部が安定し適度に締め付け感がある物。
- ・あまり**表面に汚れが溜まりやすいような、紐靴などは避けています。**
- ・介護職員なので軽く柔らかく、可能であれば**撥水し洗いやすいもの**が良い。
- ・**滑りにくく丈夫で動きやすければよい**と思います。
- ・**ホールド感がある。軽くて丈夫。紐、もしくはマジックテープでしっかり固定できること。**



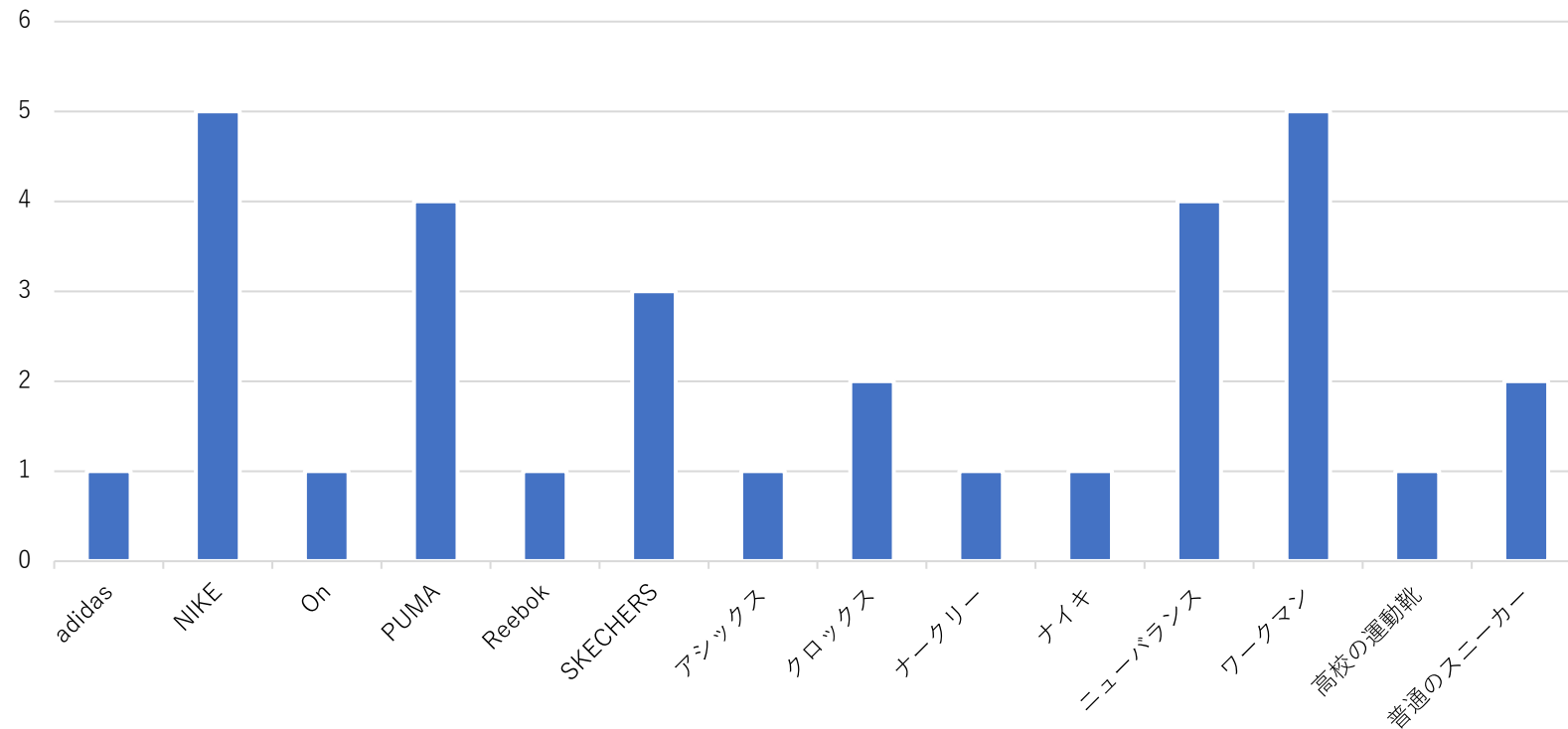
低い 1 ← → 5 高い

作業靴にまつわる ヒヤリハット・労災事例について

作業靴にまつわる労災事例等の有無について
回答してもらったところ、「作業靴の底がひっか
かり転倒した、しそうになった」「作業靴の底がす
べり転倒した、しそうになった」「作業靴の底が
脱げ転倒した、しそうになった」といった転倒災
害が全体の約6割を占めている。



使用したことのある作業靴で おすすめのメーカー等について



回答について最も多いものがNIKEとワークマンであった。
次点でPUMA、ニューバランスであり、ワークマンを除き、一般向けの靴メーカーが選ばれる傾向がある。
また、いずれも比較的価格帯の低い商品展開がされているという共通点がある。

その他回答者からの意見

回答者に作業靴に関して意見を求めたところ、作業靴の価格が高いため会社で購入して欲しい、機能面で重要視していることについてコメントが寄せられたが、その他の意見として、

- ・そもそもかかとを踏んで靴を履いている人やサンダルで仕事をしている人が多いから、転倒しても仕方がないのでは。

- ・壊れたスリッパをガムテープで補強しながら使い続ける人もいるので、普段から踵を踏んでいる人は注意しても直りません。だから個人の問題が大きいのではないのでしょうか。

など、作業靴の適切な使用方法が徹底されていないことの不備を指摘するコメントも見られた。

まとめ

- ①作業靴は自費で購入している者が大半を占める。なお、購入については会社支給や購入金額の一部負担を希望する声がある。
- ②これまでの交換足数については「1～5足」である。経験年数5年以上の労働者で最も多い交換足数は「6～10足」であった。
- ③現在使用している作業靴のタイプとしては紐タイプの靴が多い。
- ④値段について2001円から3000円までのものを求める傾向にある。④作業靴の機能に関して、重要性が高いと考えている項目として、「耐久性能」「耐滑性能」、「脱ぎ履きしやすさ」「重量」「価格」「汚れにくさ」がいずれも重要性が高い。このうち「脱ぎ履きしやすさ」については現在使用している作業靴の満足度が高い。一方で「耐滑性能」「価格」については不満度が高いため、耐滑性能を高めていく必要があると考えられる。
- ⑤作業靴にまつわる、ヒヤリハット・労災事例では転倒災害（いわゆる転倒もどき）が最も多い。